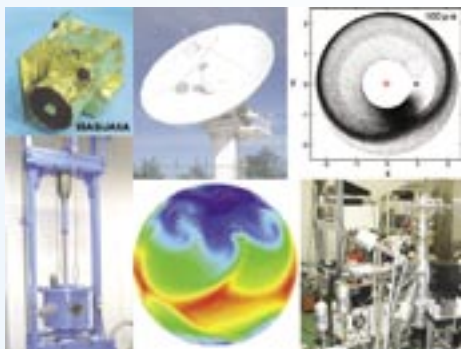


## 惑星科学国際教育研究拠点の構築

### はじめに

本年6月に採択されましたグローバルCOEプログラム「惑星科学国際教育研究拠点の構築:惑星系の起源・進化・多様性」の拠点リーダーの中川です。紙面を与えて下さいましたので、私どものグローバルCOEプログラムについて紹介させていただきます。グローバルCOEプログラムというのは、文部科学省が推進する事業で、「平成14年度から文部科学省において開始された『21世紀COEプログラム』の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする」ものであります。



惑星科学における様々な研究手段

今回、私どもは北海道大学と連携して申請を行い、厳しい競争を経て採択に漕ぎ着けることができました。今回の採択は、21世紀COEプログラム「惑星系の起源と進化」の採択に引き続く2度目の採択であり、これにより神戸大学における惑星科学のCOE拠点が前後合わせて10年間継続されることになり、神大=惑星科学拠点のイメージがより浸透すべうれしいことだと考えております。

### 惑星科学の学問状況とグローバルCOE申請の動機

惑星科学は、「天文学・宇宙物理学」から「地球科学」にまたがる大きな広がりを持つ学問分野です。研究対象は太陽系内にとどまらず、太陽系の外縁さらには太陽系の外へと大きく広がりがつあります。また、それに伴って研究手法も探査・実験・観測・コンピュータシミュレーションと多種多様な方法が用いられ研究が進められています。このような惑星科学の発展期に、神戸大学では5年前に21世紀COEプログラムが採択され、昨年「惑星科学研究センター」が設立されました。また北海道大学では2年前の改組により「理学院宇宙物理学専攻」が設立されました。こうして国内に惑星科学の2つの拠点が誕生しました。

惑星科学の目指すところは、「惑星および惑星系の起源・進化・多様性に関する全体像の整合的構築と普遍化」であります。ところが惑星科学は今大きなジレンマを抱える状況にあり



理学研究科教授  
中川 義次

ます。発展に伴い「高度専門化」が進む一方、分野の「全体像の把握」がますます困難となるジレンマであります。「高い専門性の維持」はできても「全体像の把握」がなかなか難しい場合が多いのです。このジレンマを克服し、惑星科学をさらに推進するために、実績のある我々2大学が連携して惑星科学の国際的教育研究拠点を構築しようという認識に至りました。

### 新しい教育研究センターの提案

そこで我々は、21世紀COE事業で誕生した「惑星科学研究センター」を発展進化させた「新しいタイプ」のセンターを提案することになりました。惑星科学が求めるところの「全体像の把握」を目的とし、それに必要なサービスを提供する教育研究センターであります。すなわち、我々のセンターは、人材が集い知見が集積する〈場〉を作り提供します。そして人材育成や研究活動の〈触媒〉としての働きをします。研究者は各大学に〈分散〉していますが、我々はこの研究者の分散を尊重します。〈分散〉により教育・研究の多様性が確保されると考えます。このような機能をもつ我々のセンターは、〈コーディネーションセンター〉という形態をとります。

我々は〈コーディネーション〉というキーワードを掲げ新しいタイプのセンターの構築を目指しております。〈コーディネーション〉とは本来、調整する・整えるという意味ですが、我々はこの原語の意味合いを踏まえ、〈コーディネー

ションセンター〉を次のように定義します。すなわち、個々の大学の枠を超えて惑星科学コミュニティ全体に関係する活動を発掘し支援・調整を行うセンター、これが〈コーディネーションセンター〉であります。このようなセンターの活動を推進するために、役割を分担した5つの〈コーディネーショングループ(CG)〉を設けています。そして、その運営は個々の大学の枠を超えたより広い惑星科学コミュニティの協力を得て行うことを目指しています。

我々のセンターにおける重要な活動の一つは研究者の交流する〈場〉を提供することにあります。例えば、サマースクールやセミナーは〈場〉の典型的な例であります。そのような〈場〉において、惑星科学に関する高度な知見が交換され、集積されることが重要であると考えます。〈場〉に集まった院生や研究者の間の相互作用は人材の育成を促し、研究の活性化をもたらします。このことを、我々は〈場〉の触媒作用と表現しています。また我々は、院生や若手研究者がこのような〈場〉を準備し提供する作業—これは正にコーディネーションの一つなのですが—この作業に参加することによって学ぶ実地体験も重要な人材育成であると考えています。

今回採択されましたCOE事業において、私どもは北海道大学と連携しながら従来の常識の壁を越えた様々な新しい試みを実施して行きたいと考えております。みなさまのご支援をお願い申し上げます。